

平成 28 年 8 月 19 日
総合政策局公共交通政策部

第 12 回 大都市交通センサス調査（速報版）の公表について ～ 三大都市圏の鉄道、バスの利用実態に関する調査結果 ～

国土交通省は、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道、バスの利用実態を把握し、公共交通施策の検討に資する基礎資料の提供を目的として、大都市交通センサス調査を昭和 35 年以来 5 年ごとに実施しております。

今般、平成 27 年に実施した調査結果を速報版として取りまとめましたので公表します。

1. 調査内容

- (1) 鉄道調査：鉄道利用者調査、定期券発売実績調査、鉄道 OD 調査、乗換え施設実態調査等
- (2) バス調査：バス利用者調査、バス OD 調査等

2. 調査結果の主な概要

(1) 鉄道輸送の動向

① 券種別鉄道輸送人員（鉄道 OD 調査）

首都圏は約 340 万人/日、中京圏は約 300 万人/日、近畿圏は約 110 万人/日。

定期券利用割合は、首都圏が 57%、中京圏が 64%、近畿圏が 49%。

② 鉄道定期券発売枚数（定期券発売実績調査）

首都圏は 8.9 百万枚で平成 22 年（8.5 百万枚）から増加。中京圏は 0.9 百万枚で長期的に横ばい。近畿圏は 3.0 百万枚で減少傾向から最近 5 年間でやや増加。

(2) 鉄道駅の乗換え状況（乗換え施設実態調査）

鉄道駅のピーク時とオフピーク時の平均乗換え時間は、首都圏がピーク時 4.4 分、オフピーク時 3.4 分、中京圏がピーク時 3.8 分、オフピーク時 3.2 分、近畿圏がピーク時 4.4 分、オフピーク時 3.8 分となっており、首都圏において、その差が最も大きい。

注 1) 調査対象は定期券利用者が 3,000 人/時以上の乗換え経路

[首都圏（170 駅、261 経路）、中京圏（19 駅、24 経路）、近畿圏（52 駅、79 経路）]

注 2) ピーク時：各駅の最混雑 1 時間 オフピーク時：11～16 時

(3) 空港アクセスバスの動向（バス利用者調査）

空港アクセスバスを利用した理由としては、「乗換が無い(62%)」「座って行ける(59%)」が多く、次いで「所要時間が短い(36%)」という回答が多い。[複数回答]

注) 調査対象：羽田空港、成田空港、中部空港、関西空港、大阪空港、神戸空港

お問い合わせ先： 国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 土肥、和田
TEL：(03) 5253-8111（内線 54704、54707） 直通：(03) 5253-8275